

目指す学校像	・児童が生き生きと活動する学校 ・地域とともに歩む学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 児童が自己肯定感を高め、自分から進んで学ぶ授業の充実 2 安心感のある学校づくりと児童が自分の安全への意識を高める安全指導の継続 3 コミュニティスクールの仕組みを生かした、地域や保護者の信頼にこたえる学校づくり 4 個々の力を発揮し、向上させる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和7年2月14日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○本校実施の学校評価アンケートで「授業で学習したことがきちんとわかっている。」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を超えている。 ○学習状況調査の結果、漢字・計算の正答率が8割を超えている。 〈課題〉 ○児童が自ら考えて行動したり主体的に学習に取り組んだりするなかで、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。 ○自分の考えを表現することに苦手意識を感じている児童が一定数おり、互いの考えを認め合ななかで、自信をもって学習に取り組めるようにすることが課題である。	・思考・判断・表現力を培い、学びに向かう人間性を高める協働学習の工夫 ・校内研修のテーマである「児童主体の協働学習」の工夫	①さいたま市アクティブ・ラーニング型授業を実施し、ICTを効果的に活用した協働的な学習を推進する。 ②児童が自ら設定した課題の解決に向け、学習方法を選択できるようにし、主体的に学べる環境を整える。	①本校実施の学び方アンケートの「グループで活動するとき、友だちと協力して課題やめあてに取り組める。」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。②同アンケートの「グループや自分で決めた計画に沿って、進んで調べたり作ったり発表できる。」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。	①回答結果は98%が肯定的な回答結果となり、指標を上回った。ICTは学年が上がるに連れて、効果的と思われる場面で有効に活用しながら、協働的な学習を進めていった。 ②回答結果は92%が肯定的な回答結果となり、指標を上回った。	A	高い肯定的な回答だったが、このレベルを次年度以降も維持か向上し、どの教員でも実践できるようにする必要がある。普段の授業を、児童と共に学習計画を立て、進めていく流れを確立させたい。ICTの活用も効果的に使える機会を増やしていきたい。	引き続きICTを活用しながら、全員が使えるようにしていきたい。社会とのつながりを考えると統計的な部分にも少しでも関わってくるとよい。主体性というものはこれから絶対必要。最終的には個に返ってくるので、伸ばしてほしい。
	○不安感等による登校しぶり傾向にある児童に対し、組織的に支援していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○安全・安心して過ごせる学校施設となるよう、施設修繕に適宜取り組んでいく必要がある。	・保護者や児童の相談に迅速かつ丁寧に応える校内体制の充実 ・児童の事故防止のための安全管理の徹底。	①保護者や児童からの相談に対し、迅速な情報の共有化を図り、丁寧な対応が組織的にできるようにする。 ②SAや少人数指導教員を活用し、オンライン授業やSolaルームでの学習など個に応じた指導の充実を図る。	①本校実施の教育に関するアンケート「保護者の相談や要望に適切に対応している」の質問に肯定的な回答をした割合が9割を上回ったか。 ②臨機応変にSAや少人数指導を配置し、個に応じた指導の充実につなげることができたか。	①教職員からは100%肯定的な回答、保護者からは93%が肯定的な回答結果となった。 ②年度当初に配置したSAのシフトを、学級の実態や、不測の事態に対応して、配置変換できた。	A	本年度は教室に入れない児童が一時的に保健室や会議室等を使用していた。Solaルームでの学習は、活用できていない現状であるが、必要とする児童もいることから、必要な時に活用できるような環境を整えていく。	
2	〈現状〉 ○本校の教育に関するアンケートで「学校に楽しく通っている」の質問に肯定的な回答をした児童、保護者の割合は共に9割を上回った。 ○学校施設の老朽化に伴い、破損・不具合等が発生する場所がある。 ○不安感等による登校しぶり傾向にある児童に対し、組織的に支援していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○安全・安心して過ごせる学校施設となるよう、施設修繕に適宜取り組んでいく必要がある。	・児童に育てたい力を共有し、実現に向けた方策を定めるための情報発信 ・地域に貢献し、地域に関わっていかうとする児童の育成と情報発信	①本校のホームページ上で学校運営協議会の情報を発信し、広く共有できるようにする。 ②学校行事だけでなく、普段の児童の様子を定期的にホームページにアップし児童の成長に対する関心を高める。	○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が9割を上回ったか。	・教職員からは96%、保護者からは91%の肯定的な回答結果となった。	A	ホームページの更新頻度は充実しているが、保護者の1割弱が、否定的な回答をしているので、より伝わりやすい周知をする必要がある。	HPの大宮トピックスは年々よくなっている。更新は大変だとは思いますがこれからもお願いしたい。 赤い羽根募金、これからもお願いしたい。集まった13万円強のうち、中部地区には2割ほど戻ってくる。この取り組みは地域とのつながりになっている。
3	〈現状〉 ○学校運営協議会にて児童の様子について情報共有を行い、継続して地域、家庭、学校が連携し、協力し合いながら児童の健全育成を図っていくことを確認した。 ○本校の教育に関するアンケートで「保護者や地域の方々に学校の取組や子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」の質問に肯定的な回答の割合が8割を上回った。 〈課題〉 ○大宮小学校運営協議会における熟議の充実を図り、児童に育てたい力を明確にしながら、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動の方針を定める必要がある。	・児童主体の課題解決学習を通して「学びに向かう人間性を高める協働学習の工夫」についての校内研修の実施	①エバンジェリストを中心に、ICTを活用した授業に積極的に取り組む。また、ICTの活用方法について学ぶ研修を実施したり、資料を配付したりする。 ②校内研修を充実させ、教員が授業を公開し合い、取組を共有し、授業に生かせるようにする。	○本校の教育に関するアンケートで「ひる活動等、他に役立とうとする気持ちを育てるための教育を行っている」の質問に肯定的な回答の割合が児童、保護者共に9割を上回ったか。	・教職員からは71%、保護者からは93%の肯定的な回答結果となった。4年生が社会福祉協議会と連携して赤い羽根の募金箱を地域に40個設置し、137,856円の募金額であった。	A	地域に出での活動を月1回ペースで実践しているため、保護者目線では肯定的な回答が多かった。学校運営協議会の児童の参画を試みたが、さらに実践の中で、教職員の意識を高めていきたい。	
4	〈現状〉 ○ICTの活用方法について、ICT教育推進部を中心に情報収集及び共有を行っている。 ○校内で協働学習の工夫について研修を行っており、話し合い活動を積極的に学習に取り入れている。 〈課題〉 ○教職員のICT機器の活用スキルに差異があり、誰もが学び続けられる職場環境づくりが求められる。 ○ICTを活用した授業実践の研究や事例収集等を行い、教職員間で共有する必要がある。	・児童主体の課題解決学習を通して「学びに向かう人間性を高める協働学習の工夫」についての校内研修の実施	①エバンジェリストを中心に、ICTを活用した授業に積極的に取り組む。また、ICTの活用方法について学ぶ研修を実施したり、資料を配付したりする。 ②校内研修を充実させ、教員が授業を公開し合い、取組を共有し、授業に生かせるようにする。	①教員のICT活用能力に関するアンケートで、「グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。」の肯定的な回答が9割を上回ったか。 ②学習に関するアンケートで、「自分の考えを表現したり共有したりする時に、学習ソフトを使っている」の質問に肯定的な回答の割合が9割を上回ったか。	①2月4日時点で、まだアンケートは来っていないが、授業を担当している教員は、積極的にICTを活用して学習を展開している。児童も、高学年を中心に使い慣れている。 ②児童は3.41の回答結果(百分率換算では85%)であった。オクリンク、Canva、PowerPointなどをよく使用している。	A	校内での活用は増えているが、日常の活動で効果的だった実践などを、Teamsを活用して周知し、情報の共有をしていきたい。また、教職員の活用スキルには差異があるため、ICTの活用の研修の機会を設定し、教員も使い慣れている状態にしていきたい。	どんどんやっていただきたい。情報管理等のリスクの部分だけ先の方でしっかりしていただければ。 AIの活用もこれから入ってくるのであろう。SNSの時代になっているので、止めるのではなく安全にルールの中で進めていきたい。全部PCではなく、読み書きも並行させていきたい。